

令和7年度病虫害発生予報第9号（1月予報）概要表

令和7年12月23日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
1 水稻の冬期防除対策		
(1) スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）		
2 麦類の防除対策		
(1) ムギダニ		
3 トマト（冬春栽培）		
(1) 灰色かび病		並
(2) 葉かび病		並※
(3) 黄化葉巻病		やや多
(4) コナジラミ類		やや多
4 きゅうり（冬春栽培）の防除対策		
(1) ベと病		
(2) 灰色かび病		
(3) アザミウマ類		
(4) コナジラミ類		
5 いちご（本ぼ）		
(1) 灰色かび病		並
(2) うどんこ病		並
(3) アザミウマ類		並
(4) ハダニ類		並
6 茶の冬期防除対策		
(1) チュウゴクアミガサハゴロモ		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 7 年度病虫害発生予報第 9 号（1 月予報）

令和 7 年 1 2 月 2 3 日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻の冬期防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
スクミ リンゴガイ (ジャンボ タニシ)	・厳寒期にトラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、貝を細かく砕くように耕うんする。 ・貝は大部分が土中深さ 6cm 未満で越冬する。深い耕うんは貝を土中に埋め込み、越冬を助長する可能性があるため、耕うん深度を 6cm 程度と浅くする。 ・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、発生ほ場で使用したトラクターに付着した泥はしっかりと洗浄する。 ・暖冬により本種の越冬個体数は増加するため、冬期の気温が高いことが予測される場合は発生ほ場における耕うんの回数を増やす。 ・冬期に貝の生息する用・排水路の堀さらいを行い、寒気にさらす。

2 麦類の防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
ムギダニ	・第 2 世代成虫が出現する 1 月中旬～2 月の麦踏みは、薬剤防除と同等の生息密度低減効果がある。 ・昨年発生ほ場や稲わらすき込みほ場、あるいは暖冬などで多発が予想される場合は、麦踏みの回数を増やす。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

3 トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○12 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並※	○12 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	やや多	○12 月中旬の発生量：並 □1 月のコナジラミ類の予想発生量：やや多（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	やや多	○12 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫は黄化葉巻病を媒介するため、防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

4 きゅうり（冬春栽培）の防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
べと病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
灰色かび病	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・購入苗の場合は、到着時に病害虫の発生を十分確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。	

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 いちご（本ぽ）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○12 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・多湿により助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○12 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・草勢の衰えや過繁茂により発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	並	○12 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（±）	・粘着板等によるモニタリングを行い、早期発見及び初期防除に努める。
ハダニ類	並	○12 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（±）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。			

6 茶の冬期防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
チュウゴク アミガサ ハゴロモ	・10 月 9 日に発表した「注意報第 8 号」（参照 2）を参考に防除対策を実施する。 ・11 月 13 日に発表した防除情報（参照 3）を参考に、産卵された枝の切除と適切な処分を行う。 ・本種のふ化は翌年の 3 月頃に始まると予測されるため、産卵された枝はそれまでに適切に対処する。

参照 2：令和 7 年度病虫害発生予察注意報第 8 号

「植木類・チャ・果樹類・宿根アスター等、チュウゴクアミガサハゴロモ」（令和 7 年 10 月 9 日）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-8.html>

参照 3：「チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！」（令和 7 年 11 月 13 日）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20251113cha.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省） から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和7年12月18日発表)

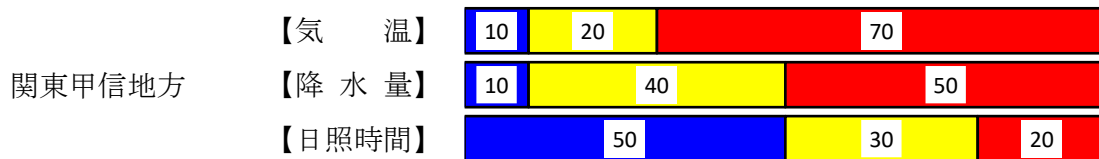
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

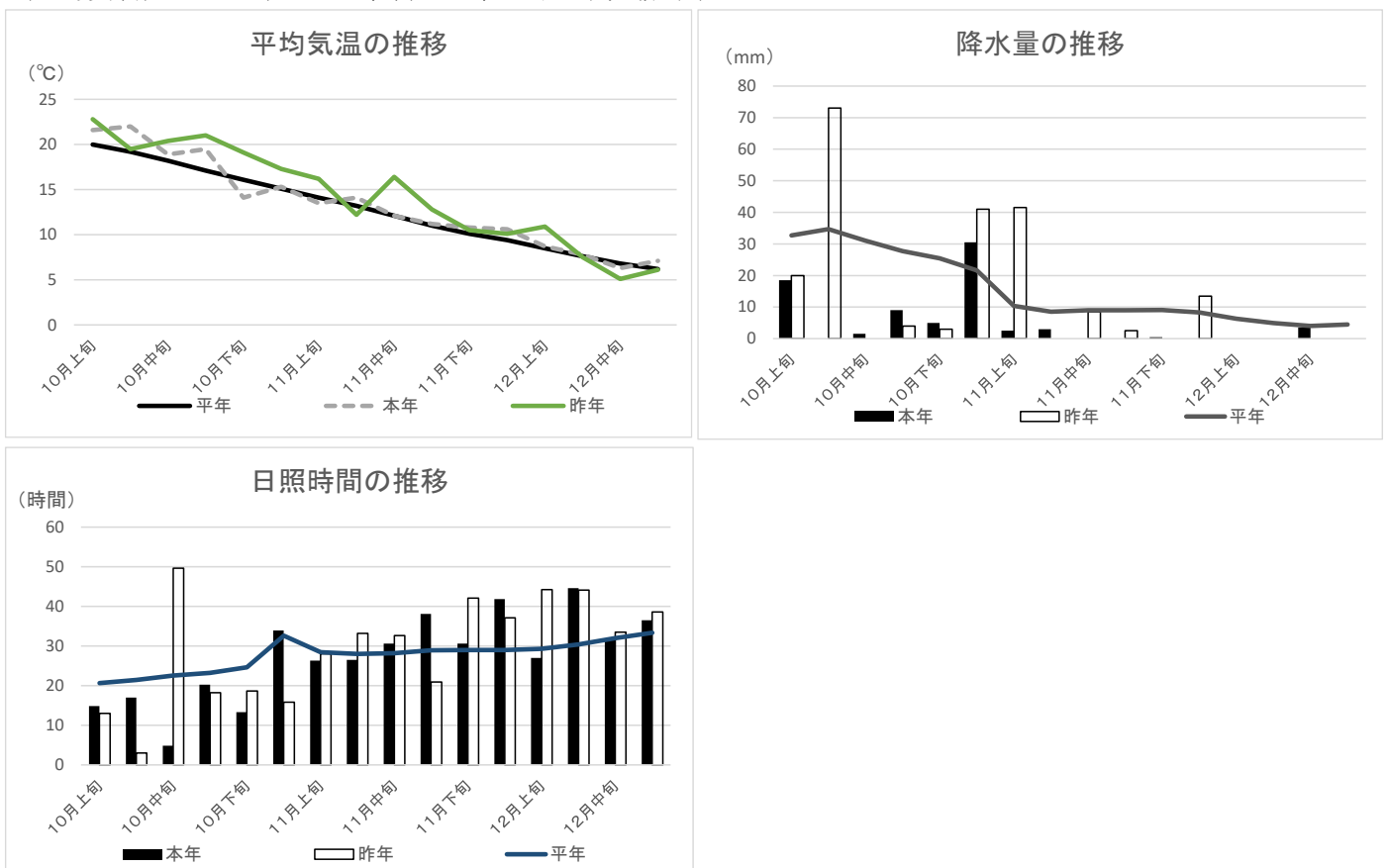
- ・寒気の影響を受けにくいと、向こう1か月の気温は、高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>